# *吉原*

吉原は江戸の歓楽街だった。吉原の世界はその魅力と大変厳しく複雑な規則で莫大な数の文学の対象となった。吉原は無数の絵と無数の浮世絵に描かれており、その叙述をしようと思えば略式であっても複数の巻に及ぶ分厚い作品になってしまうだろう。ここで吉原の世界の簡潔な描写をしてみよう。

１６１８年に将軍は 著しい発展期にあった江戸の町で急激に増大する売春を塀によって囲われた特定の界隈に制限することに決めた。吉原はその中の一つの地区で、この地区のまわりに壁が作られた。しかし、この地区が現在の場所である浅草の北になったのは１６５６年のことである。この閉ざされた区域で少しずつ売春婦の階級制度が発展し、現在の芸者に受け継がれている江戸のある洗練された精神が形成されていった。１８世紀までは異なる遊女部屋に通っていたとはいえ、一般市民と上流階級の人々は吉原ですれ違っていた。最も高級な売春婦達は数回の出会いの後でしか身を捧げなかった。誘惑することは重要だったのである。

吉原地区では商人と上流階級の人々の間の交流を優遇されていたのでこの地区で多数の商談が成立し、吉原は当時の経済にとって極めて重要な地区であった。

しかし、１８世紀以降吉原は衰え始め、より平凡な性産業を専門とした地区へと変容していった。それに対し隅田川の反対側の深川地区では芸者が支配する近寄りがたい料亭という高級レストランが最盛期を迎え始めた。吉原は少しずつみすぼらしい界隈に成り下っていた。。お金持ちの客が地区を離れるにつれて売春婦たちはますます主人に悪く扱われた。火事や病気や栄養失調が猛威をふるい、そして一種の共同墓穴であったという投げ込み寺(身を投げる寺)ではいまでも祈りが拝げられている。

１９５７年日本では売春が禁止され売春宿は閉鎖された。たくさんの売春宿は日本ではあまり出入りしない方がいいとされているトルコ風呂に変わり吉原にも「ラブホテル」が生まれたが、東京の歓楽街はそれからは他の地区、とりわけ新宿の歌舞伎町へと移っていった。